

1 調査名称：松本都市圏総合都市交通体系調査

2 調査主体：長野県

3 調査圏域：松本都市圏

4 調査期間：平成20年度～平成21年度

5 調査概要：

松本都市圏総合都市交通計画の策定（平成22年度予定）に向け、現状と将来の交通網の問題点を把握した上で、これまでの計画を検証し、社会的な諸条件下において実現性と実効性のある、公共交通施策や交通需要管理等を含めた総合的な交通体系の検討を行うものである。

I 調査概要

1 調査名：松本都市圏総合都市交通体系調査

2 報告書目次

I編 業務概要

1. 業務概要

II編 設計編

1. 調査計画

2. 調査対象の抽出

2.1 対象世帯の抽出方針

2.2 抽出作業

3. アンケート調査計画

3.1 本調査

3.2 付帯調査

4. アンケート用サーバシステム設計

4.1 運用・管理計画

4.2 WEBサイトの設計

5. 実施マニュアルの作成

5.1 訪問配布回収マニュアル

5.2 郵送回収手続き

5.3 問い合わせ対応マニュアル

6. データチェック、データファイルの作成

6.1 データファイル作成

6.2 回収結果

6.3 オリジナルファイルの作成

7. WGの運営支援

8. 付帯調査の集計・分析

9. 今後の調査方針の検討

III編 実態調査編

1. 対象者名簿の作成

2. アンケート票の配布準備

3. パーソントリップ調査の実施

4. スクリーンライン・コードンライン調査

5. 協議資料の編集

3 調査体制

松本都市圏総合都市交通計画策定検討会 (WG)

松本都市圏総合都市交通計画策定検討会 事務局
(長野県建設部都市計画課及び松本、安曇野、大町建設事務所)

4 委員会名簿等：

国土交通省関東地方整備局	企画部広域計画課	課長補佐	関 一雄
	建政部都市整備課	課長補佐	小幡 宏
	道路部道路計画第二課	課長補佐	川崎 浩之
	長野国道事務所計画課	課長	中島 祥行
長野県建設部	都市計画課	企画幹	山岸 勸
	道路建設課	企画幹	小林 康成
	道路管理課	企画幹	石井 杉男
長野県企画部	交通政策課	企画幹	小林 利弘
長野県警察本部	交通部交通規制課	課長補佐	三石 研也
長野県松本地方事務所	地域政策課	課長	竹淵 哲雄
長野県北安曇地方事務所	地域政策課	課長	角田 道夫
長野県松本建設事務所	整備課	課長	三原 文雄
長野県安曇野建設事務所	整備課	課長	越 俊光
長野県大町建設事務所	整備課	課長	有賀 久
松本警察署	交通課	課長	藤沢 茂
安曇野警察署	交通課	課長	宮本 忠義
塩尻警察署	交通課	課長	熊井 一孝
大町警察署	交通課	課長	太田 重治
松本市	建設部計画課	課長	丸山 悦男
安曇野市	都市建設部監理課	課長	古旗 昇
塩尻市	建設事業部都市づくり課	課長	百瀬 恵一
波田町	地域づくり課	課長	牛丸 仁志
麻績村	振興課	課長	飯森 力

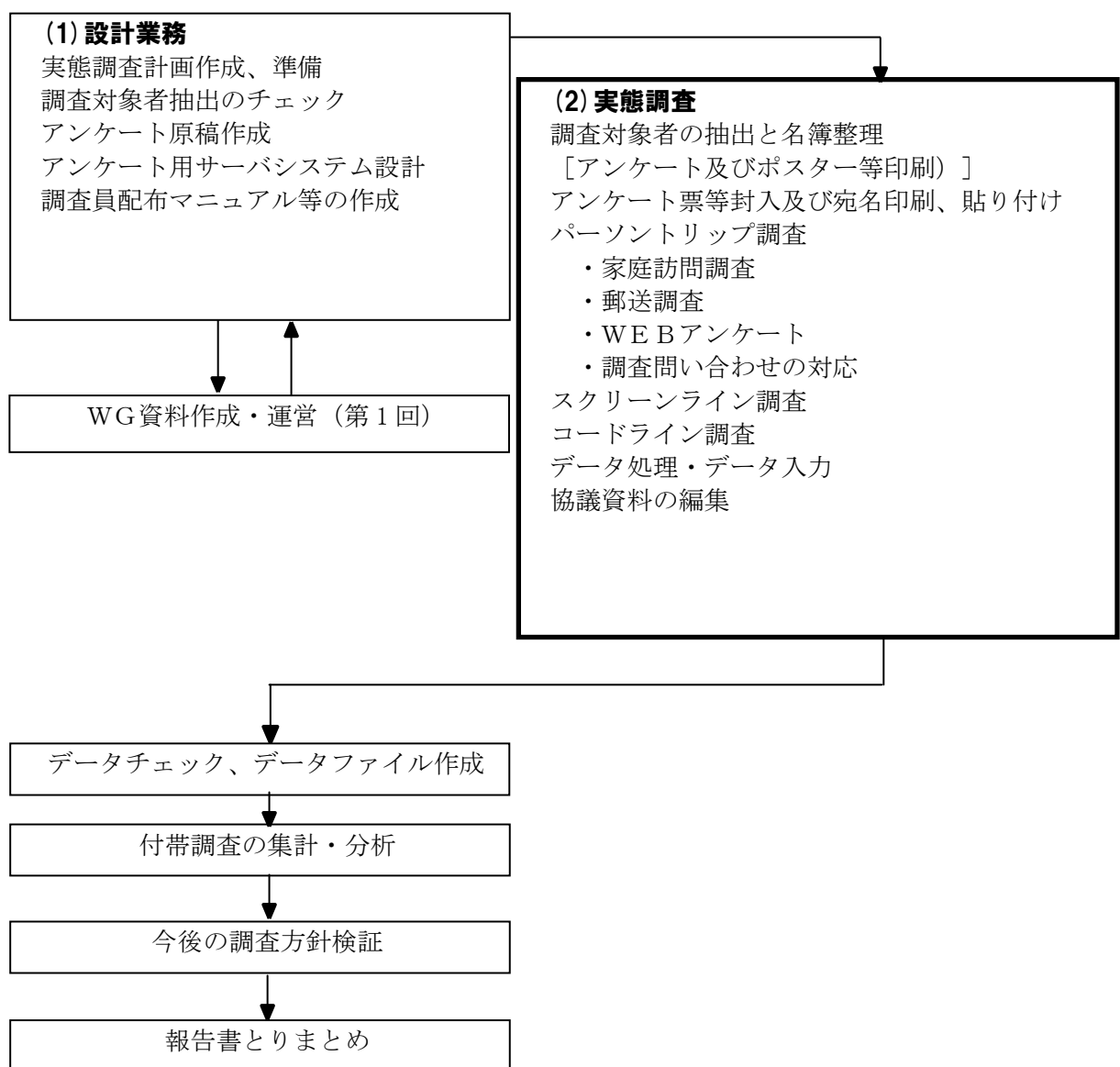
生坂村	振興課	課長	瀧澤 寿教
山形村	建設農林課	課長	中村 俊春
朝日村	産業振興課	課長	塩原 忠男
筑北村	建設課	課長	鎌田 篤
池田町	振興課	課長	宮嶋 将晴
松川村	建設水道課	課長	茅野 英太郎

II 調査成果

1 調査目的

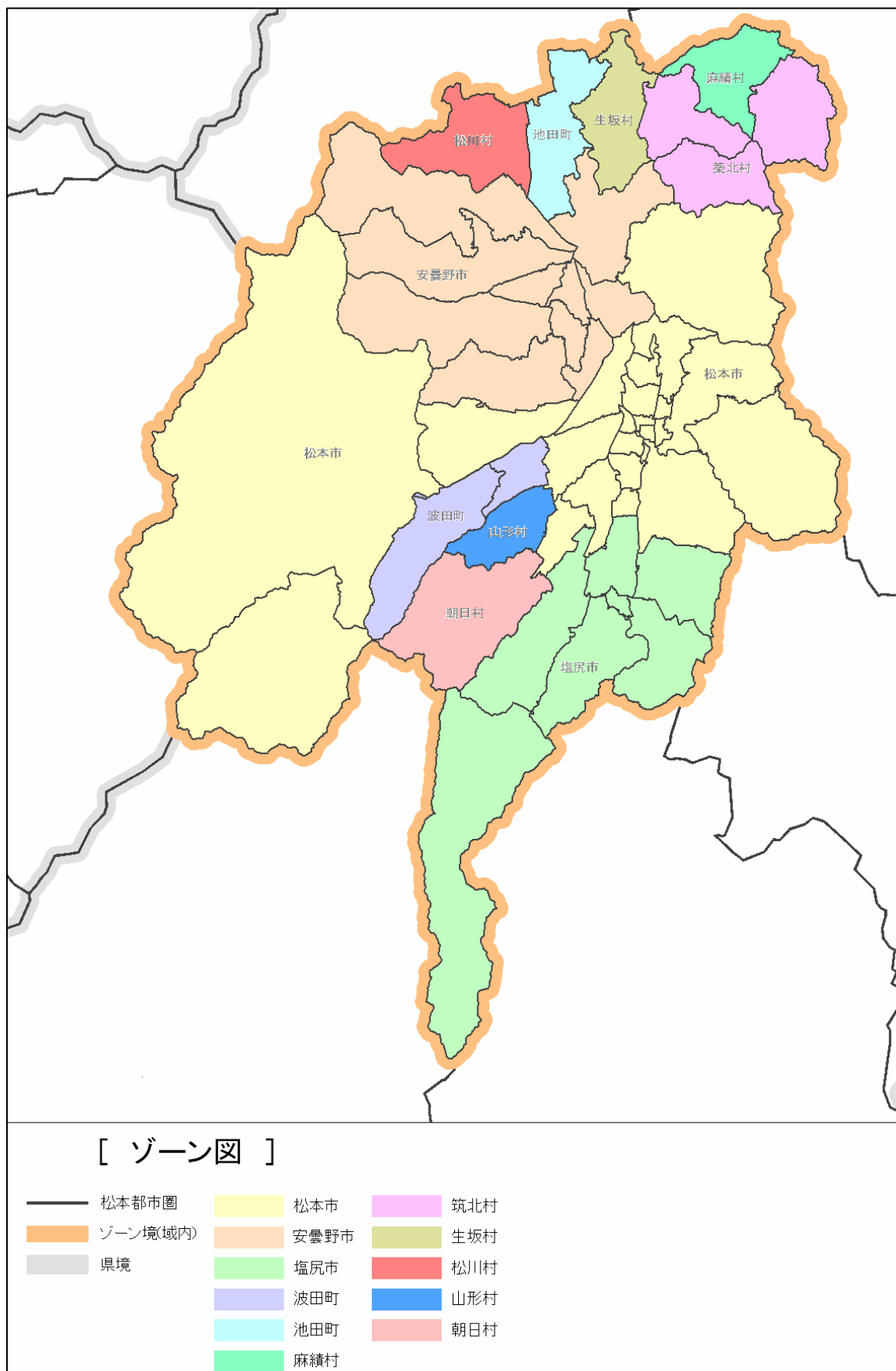
平成 20 年度は、都市圏の交通実態を的確に把握することを目的として、平成 19 年度実施の「松本都市圏総合交通体系調査（以下、「予備調査」と省略する）」を踏まえ、交通実態調査（パーソントリップ調査、スクリーンライン調査、付帯調査等の補完調査）を行った。

2 調査フロー



3 調査圏域図

業務対象区域：松本市、塩尻市、安曇野市、波田町、麻績村、生坂村、朝日村、山形村、筑北村、池田町、松川村の3市2町6村



4 調査成果

1) パーソントリップ調査の結果

1.1 調査結果概要

(1) 回収状況の概要整理

1) 調査への協力意思表示の確認及び調査手段の選択結果

実態調査に先立ち、対象者が調査方法（①郵送配布回収、②WEBアンケート、③訪問配布回収）を選択する協力依頼ハガキの回収状況を示す。

5万世帯に調査協力ハガキを発送し、返送数は15,047世帯（回収率30.09%）であった。このうち、調査に協力していただけるという回答があったのは12,399世帯で、調査手段の内訳は、①郵送配布希望者9,502世帯（76.63%、想定50%）、②WEBアンケート希望者2,808世帯（22.65%、想定10%）、③訪問配布希望者89世帯（0.72%、想定40%）であった。

2) 調査票回収状況

調査票はハガキで協力回答（平成20年11月14日時点）をいただいた11,197世帯と、ハガキの未返送世帯への追加発送29,887世帯、協力意向の連絡を頂いて追加発送から漏れた世帯（平成20年11月14日以後）に対し現地事務所から202世帯に発送、合計41,286に配布し、回収は13,284世帯であった。内訳は、①郵送回答者10,676世帯（80.37%、想定50%）、②WEB回答者2,538世帯（19.11%、想定10%）、③訪問調査回答者70世帯（0.53%、想定40%）であった。

表 1-1 調査票の発送数

ハガキ	追加発送	現地事務所	合計
11,197	29,887	202	41,286

表 1-2 調査票回収状況（H21.1/27 時点）

大ゾーン コード	市町村別	サンプル数	目標世帯数 (⑥)	回収 (⑤=①+②+③)		WEB (①)		郵送 (②)		訪問 (③)			
				数	率(⑤/⑥)	回答世帯数	構成比(①/⑥)	返送世帯数	構成比(②/⑥)	対象世帯数	回収世帯数	構成比(③/⑥)	拒否数
01	松本市	26,839	8,589	7,174	83.53%	1,336	15.55%	5,799	67.52%	49	39	0.45%	10
02	塩尻市	7,330	2,346	1,758	74.94%	447	19.05%	1,305	55.63%	6	6	0.26%	0
03	安曇野市	10,078	3,225	2,783	86.29%	488	15.13%	2,283	70.79%	14	12	0.37%	2
04	波田町	1,475	472	372	78.81%	60	12.71%	311	65.89%	3	1	0.21%	2
05	山形村	754	241	196	81.33%	31	12.86%	165	68.46%	-	-	-	-
06	朝日村	413	132	117	88.64%	26	19.70%	90	68.18%	1	1	0.76%	0
07	麻績村	305	98	88	89.80%	10	10.20%	76	77.55%	2	2	2.04%	0
08	生坂村	220	70	51	72.86%	3	4.29%	47	67.14%	1	1	1.43%	0
09	筑北村	563	180	169	93.89%	25	13.89%	144	80.00%	-	-	-	-
10	池田町	1,031	330	304	92.12%	63	19.09%	239	72.42%	2	2	0.61%	0
11	松川村	992	317	272	85.80%	49	15.46%	217	68.45%	8	6	1.89%	2
	合計	50,000	16,000	13,284	83.03%	2,538	15.86%	10,676	66.73%	86	70	0.44%	16

※宛て所不明 60 件は含まず、無効票は含む

※郵送回収には調査本部への直接持ち込み、電話による聞き取りを含む

表 1-3 協力依頼ハガキ回収状況 (H21.1/27 時点)

大ゾーン コード	市町村別	発送枚数 (7)	返送(応答)計 (6=④+⑤)		WEB (1)		郵送 (2)		訪問 (3)		協力計 (4=①+②+③)		拒否 (5)	
			数	率(6/7)	数	構成比(1/4)	数	構成比(2/4)	数	構成比(3/4)	数	率(4/7)	数	率(5/7)
01	松本市	26,839	8,151	30.37%	1,490	22.10%	5,199	77.13%	52	0.77%	6,741	25.12%	1,410	5.25%
02	塩尻市	7,330	1,831	24.98%	464	31.20%	1,018	68.39%	6	0.40%	1,488	20.30%	343	4.68%
03	安曇野市	10,078	3,067	30.43%	533	21.25%	1,960	78.15%	15	0.60%	2,508	24.89%	559	5.55%
04	波田町	1,475	458	31.05%	74	19.02%	313	80.46%	2	0.51%	389	26.37%	69	4.68%
05	山形村	754	200	26.53%	48	26.67%	132	73.33%	0	0.00%	180	23.87%	20	2.65%
06	朝日村	413	135	32.69%	25	22.94%	84	77.06%	0	0.00%	109	26.39%	26	6.30%
07	麻績村	305	151	49.51%	15	14.29%	88	83.81%	2	1.90%	105	34.43%	46	15.08%
08	生坂村	220	97	44.09%	7	8.86%	70	88.61%	2	2.53%	79	35.91%	18	8.18%
09	筑北村	563	263	46.71%	32	14.04%	196	85.96%	0	0.00%	228	40.50%	35	6.22%
10	池田町	1,031	356	34.53%	70	23.81%	222	75.51%	2	0.68%	294	28.52%	62	6.01%
11	松川村	992	338	34.07%	50	18.05%	220	79.06%	8	2.89%	278	28.02%	60	6.05%
	合計	50,000	15,047	30.09%	2,808	22.65%	9,502	76.63%	89	0.72%	12,399	24.80%	2,648	5.30%

※電話による拒否 30 件、宛て所不明 384 件

※各手法には、ハガキを紛失した等で電話で協力を承諾いただいた対象者のものも含まれる

※拒否には、ハガキによるものと、電話によるものの計を表す

(2) 調査票日別回収結果

日別回収状況では、WEBによる回収は調査指定日からすぐに回答を得ることができ、調査指定日以後もわずかではあるが回収することができたが、郵送回収に比べ回答を得られる期間が短い。

郵送による回収は指定調査日後の週末に調査票の返送が多く若干回答を得るのが遅くなる傾向にある。協力依頼ハガキによる調査協力回答では郵送による回答が多数を占めていたため、調査票の回収状況を把握するためには郵送回収が重要であった。そこで、土曜、日曜、祝日など郵便配達がない日も郵便窓口まで伺い調査票の回収を行った。

訪問調査による回収は調査指定日の後、調査員が対象者から回収を行う必要があるため、まとめた回収ができるが、回収時期は他の回収方法に比べ遅くなる結果となった。

以下に日別の回収状況を示す。

松本都市圏 PT 調査日別回収状況概要

①目標	16,000 世帯
-----	-----------

日付		郵送	WEB	訪問	②合計	日別 構成比	③累計	達成率	備考
		返送 世帯数	回答 世帯数	回収 世帯数	回収 世帯数	②/①	回収 世帯数	③/①	
		10,676	2,538	70	13,284		13,284	83.03%	
11月19日	水	0	0	-	0	0.00%	0	0.00%	指定調査日
11月20日	木	8	0	-	8	0.06%	8	0.05%	指定調査日
11月21日	金	368	334	-	702	5.28%	710	4.44%	
11月22日	土	414	408	-	822	6.19%	1,532	9.58%	
11月23日	日	407	213	-	620	4.67%	2,152	13.45%	
11月24日	月(祝)	-	249	-	249	1.87%	2,401	15.01%	
11月25日	火	273	129	-	402	3.03%	2,803	17.52%	
11月26日	水	498	95	-	593	4.46%	3,396	21.23%	指定調査日
11月27日	木	291	68	-	359	2.70%	3,755	23.47%	指定調査日
11月28日	金	476	60	-	536	4.03%	4,291	26.82%	
11月29日	土	611	73	-	684	5.15%	4,975	31.09%	
11月30日	日	-	65	-	65	0.49%	5,040	31.50%	
12月1日	月	394	103	-	497	3.74%	5,537	34.61%	
12月2日	火	894	95	-	989	7.45%	6,526	40.79%	指定調査日
12月3日	水	25	100	-	125	0.94%	6,651	41.57%	指定調査日
12月4日	木	511	72	-	583	4.39%	7,234	45.21%	指定調査日
12月5日	金	711	46	-	757	5.70%	7,991	49.94%	
12月6日	土	764	52	45	861	6.48%	8,852	55.33%	
12月7日	日	-	70	-	70	0.53%	8,922	55.76%	
12月8日	月	889	47	-	936	7.05%	9,858	61.61%	
12月9日	火	364	29	-	393	2.96%	10,251	64.07%	
12月10日	水	691	16	-	707	5.32%	10,958	68.49%	
12月11日	木	374	20	-	394	2.97%	11,352	70.95%	
12月12日	金	296	13	-	309	2.33%	11,661	72.88%	
12月13日	土	211	18	-	229	1.72%	11,890	74.31%	
12月14日	日	-	25	-	25	0.19%	11,915	74.47%	
12月15日	月	264	11	-	275	2.07%	12,190	76.19%	
12月16日	火	60	11	25	96	0.72%	12,286	76.79%	
12月17日	水	157	13	-	170	1.28%	12,456	77.85%	
12月18日	木	111	6	-	117	0.88%	12,573	78.58%	
12月19日	金	148	5	-	153	1.15%	12,726	79.54%	
12月20日	土	54	11	-	65	0.49%	12,791	79.94%	
12月21日	日	-	15	-	15	0.11%	12,806	80.04%	
12月22日	月	30	6	-	36	0.27%	12,842	80.26%	
12月23日	火(祝)	-	14	-	14	0.11%	12,856	80.35%	

松本都市圏 PT 調査日別回収状況概要

①目標	16,000 世帯
-----	-----------

日付		郵送	WEB	訪問	②合計	日別 構成比	③累計	達成率	備考
		返送 世帯数	回答 世帯数	回収 世帯数	回収 世帯数	②/①	回収 世帯数	③/①	
		10,676	2,538	70	13,284		13,284	83.03%	
12月24日	水	106	8	-	114	0.86%	12,970	81.06%	
12月25日	木	-	2	-	2	0.02%	12,972	81.08%	現地本部の閉所
12月26日	金	-	2	-	2	0.02%	12,974	81.09%	
12月27日	土	-	1	-	1	0.01%	12,975	81.09%	
12月28日	日	-	6	-	6	0.05%	12,981	81.13%	
12月29日	月	-	3	-	3	0.02%	12,984	81.15%	
12月30日	火	-	2	-	2	0.02%	12,986	81.16%	
12月31日	水	-	5	-	5	0.04%	12,991	81.19%	
1月1日	木	-	1	-	1	0.01%	12,992	81.20%	
1月2日	金	-	1	-	1	0.01%	12,993	81.21%	
1月3日	土	-	-	-	0	0.00%	12,993	81.21%	
1月4日	日	-	-	-	0	0.00%	12,993	81.21%	
1月5日	月	189	3	-	192	1.45%	13,185	82.41%	
1月6日	火	-	3	-	3	0.02%	13,188	82.43%	
1月7日	水	-	-	-	0	0.00%	13,188	82.43%	
1月8日	木	-	-	-	0	0.00%	13,188	82.43%	
1月9日	金	-	1	-	1	0.01%	13,189	82.43%	
1月10日	土	-	2	-	2	0.02%	13,191	82.44%	
1月11日	日	-	2	-	2	0.02%	13,193	82.46%	
1月12日	月	-	2	-	2	0.02%	13,195	82.47%	
1月13日	火	-	-	-	0	0.00%	13,195	82.47%	
1月14日	水	54	-	-	54	0.41%	13,249	82.81%	
1月15日	木	-	-	-	0	0.00%	13,249	82.81%	
1月16日	金	-	-	-	0	0.00%	13,249	82.81%	
1月17日	土	-	1	-	1	0.01%	13,250	82.81%	
1月18日	日	-	1	-	1	0.01%	13,251	82.82%	
1月19日	月	-	-	-	0	0.00%	13,251	82.82%	
1月20日	火	-	-	-	0	0.00%	13,251	82.82%	
1月21日	水	-	-	-	0	0.00%	13,251	82.82%	
1月22日	木	-	-	-	0	0.00%	13,251	82.82%	
1月23日	金	27	-	-	27	0.20%	13,278	82.99%	回収締切
1月24日	土	-	-	-	0	0.00%	13,278	82.99%	
1月25日	日	-	-	-	0	0.00%	13,278	82.99%	
1月26日	月	-	-	-	0	0.00%	13,278	82.99%	
1月27日	火	6	-	-	6	0.05%	13,284	83.03%	

1.2 訪問調査の実施結果

(1)マニュアルに基づく調査員の訓練、連絡、対応結果を整理

マニュアルにもとづき、調査員3名により調査票の回収を行った。回収にあたっては、現地本部と調査員とで逐次連絡を取りながら、管理を行った。

1.3 調査問い合わせへの対応

(1)パーソナルリップ調査（本体調査）に関する問い合わせ対応

マニュアルに基づき、事務所への問い合わせは、調査員が対応した。

1) 現地事務所への電話問い合わせ内容、回数、対応の整理

現地事務所への問い合わせ件数：1,400件

表 1—4 問い合わせ内容と対応件数 (n=1400)

	問い合わせ内容	件数	割合
1	どこが実施しているのか／怪しい調査ではないか等	88	6.3%
2	何のための調査か	29	2.1%
3	協力しなければならないのか	26	1.9%
4	なぜ、調査対象者に選ばれたのか	6	0.4%
5	プライバシー、個人情報を守れるのか	17	1.2%
6	調査票記入・回答方法の質問	436	31.1%
7	WEB回答に関する質問	41	2.9%
8	協力拒否	210	15.0%
9	返信する際の住所・氏名等の記入についての問い合わせ	196	14.0%
10	投函期限を過ぎても大丈夫か	103	7.4%
11	調査票を発送してほしい	14	1.0%
12	本部にて調査票代筆	55	3.9%
13	追加発送について	90	6.4%
14	調査対象日超過	18	1.3%
15	その他	192	13.7%

(2)付帯調査に関する問い合わせ内容、回数、対応の整理

付帯調査に関する問い合わせ件数：55件

表 1-5 付帯調査に関する問い合わせ内容と対応件数 (n=55)

	問い合わせ内容	件数	割合
1	どこが実施しているのか／怪しい調査ではないか等	2	3.6%
2	何のための調査か	1	1.8%
3	協力しなければならないのか	0	0.0%
4	なぜ、調査対象者に選ばれたのか	0	0.0%
5	プライバシー、個人情報を守れるのか	0	0.0%
6	調査票記入・回答方法の質問	23	41.8%
7	WEB回答に関する質問	5	9.1%
8	協力拒否	4	7.3%
9	返信する際の住所・氏名等の記入についての問い合わせ	0	0.0%
10	投函期限を過ぎても大丈夫か	14	25.5%
11	調査票を発送してほしい	0	0.0%
12	本部にて調査票代筆	2	3.6%
13	追加発送について	0	0.0%
14	調査対象日超過	0	0.0%
15	その他	4	7.3%

2) スクリーンライン、コードンライン調査の結果

2.1 調査計画

(1)調査箇所を選定、現地踏査、実施方法（警察手続き等）

パーソントリップ調査によって得られた現況OD表の調査精度を検討するため、調査圏域内にスクリーンラインを設定し、これを通過する交通調査を行う。スクリーンラインの設定は、犀川・奈良井川をラインとする。また、調査対象権域外と流入する自動車交通量をとらえることで、より精度の高い検討をおこなうため、コードンライン調査を実施する。コードンラインはセンサスでの12時間観測地点のうち、24時間観測地点並みの交通量が想定される（3千台/24h程度）の8箇所を設定する。

交通量観測は、車種別、方向別で集計時間帯は1時間毎とし、24時間観測を行う。

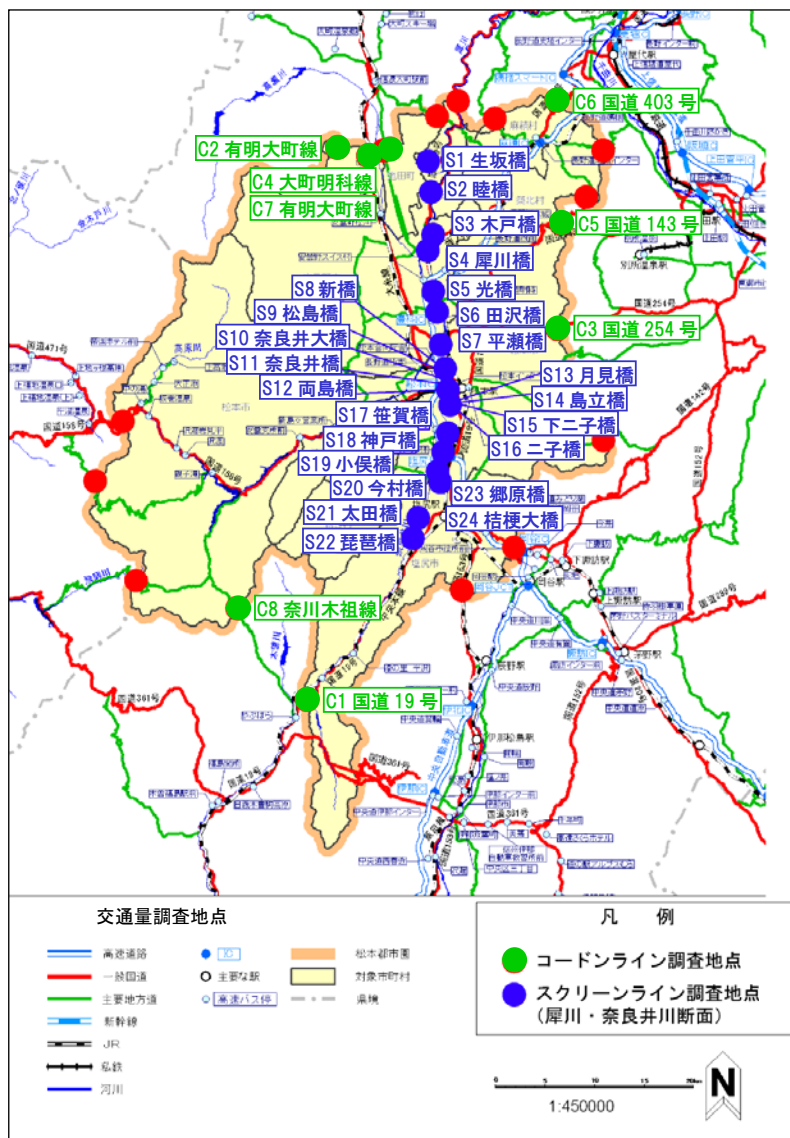


図 2-1交通量調査箇所図

スクリーンライン調査及びコードンライン調査の実施に当たっては、以下の資料を作成した。

- ・作業計画書（調査地点ごとに作成。ここでは、1地点を例に掲載。

残りは参考資料参照）

- ・道路使用許可申請書
- ・調査計画書（安全計画）

2.2 調査

(1)実施時の状況（写真等）、クレーム報告

スクリーンライン調査地点において、警察から不審者がいるとの問い合わせが1件寄せられた。対応して「交通量調査中」との看板表示を明るく見やすい場所に移動させ対応した。

実施箇所、各地点の詳細を以下に示す。

パーソントリップ調査 調査箇所一覧表			
コードンライン調査			
観測地点コード	路線名	場所	管理者
C1	国道 19 号	道の駅「奈良井木曾の大橋」駐車場	塩尻市
C2	有明大町線	乳川より 400m 下流 道路デッドスペース	大町建設事務所
C3	国道 254 号	三才山トンネル松本側駐車帯	長野県道路公社三才山トンネル 有料道路管理事務所
C4	大町明科線	池田町南正科バス停付近矢口栄一郎様駐車場	矢口栄一郎
C5	国道 143 号	青木トンネル筑北側 林道交差点付近	筑北村
C6	国道 403 号	聖湖付近駐車スペース	松本建設事務所
C7	有明大町線	高瀬川右岸はなみ橋北側（散布場付近）	大町建設事務所
C8	奈川木祖線	そばの里奈川駐車場	そばの里
スクリーンライン調査			
観測地点コード	橋梁名	場所	管理者
S1	生坂橋	犀川右岸ファミリースポーツパーク駐車場	生坂村
S2	睦橋	犀川左岸堤防（歩道付近）	長野国道事務所松本国道出張所
S3	木戸橋	犀川左岸コメリ駐車場	コメリ
S4	犀川橋	犀川左岸堤防	安曇野建設事務所
S5	光橋	犀川左岸駐車スペース	安曇野建設事務所
S6	田沢橋	犀川右岸安曇野市道	安曇野市
S7	平瀬橋	平瀬橋交差点北側歩道	松本建設事務所
S8	新橋	奈良井川左岸ナショナルショップ横歩道	松本市
S9	松島橋	奈良井川左岸サロンドアイ前	サロンドアイ
S10	奈良井大橋	奈良井川左岸ハムセンアライ前	ハムセンアライ
S11	奈良井橋	奈良井川右岸堤防道路デッドスペース	松本市
S12	両島橋	奈良井川左岸倉科嘉男様空地	倉科嘉男（市役所交通量時にいつも土地を借りている）
S13	月見橋	奈良井川右岸赤羽可行様駐車スペース	赤羽可行（事前連絡時にもう連絡はらないとのこと）
S14	島立橋	奈良井川右岸松本土建倉庫跡地	松本市
S15	下二子橋	奈良井川右岸歩道	松本市
S16	二子橋	奈良井川右岸平林工機駐車場	平林工機
S17	笹賀橋	奈良井川右岸歩道	松本建設事務所
S18	神戸橋	奈良井川右岸デッドスペース	松本建設事務所
S19	小俣橋	奈良井川右岸車道デッドスペース	松本建設事務所
S20	今村橋	奈良井川左岸歩道デッドスペース	松本建設事務所
S21	太田橋	奈良井川左岸西窪富美三様空地	西窪富美三
S22	琵琶橋	奈良井川左岸デッドスペース	松本建設事務所
S23	郷原橋（案）	奈良井川左岸堤防道路	松本建設事務所
S24	桔梗大橋（案）	奈良井川左岸堤防道路	松本建設事務所

2.3 調査結果

(1) 観測交通の整理

コードンライン、スクリーンラインの交通量調査結果を以下に示す

表 2-1 交通量調査結果

NO.	観測地点	道路名	12時間 交通量	日交通量	昼夜率	H17センサス 交通量	センサス 区間番号
C01	奈良井木曾の大橋	国道19号	7,305	11,104	1.52	14,001	1050
C02	乳川下流	有明大町線	2,673	3,090	1.16	2,936	66245
C03	三才山トンネル	国道254号	5,011	6,855	1.37	9,191	1329
C04	池田町南正科バス停	大町明科線	4,817	5,789	1.20	7,666	4149
C05	青木トンネル	国道143号	252	316	1.25	6,213	71167
C06	聖湖付近	国道403号	578	671	1.16	5,312	1431
C07	はなみ橋北側	有明大町線	8,262	10,294	1.25	12,686	6248
C08	そばの里奈川	奈川木祖線	109	138	1.27	2,125	4081
S01	生坂橋	上生坂信濃松川停車場線	717	828	1.15	-	-
S02	陸橋	国道19号	4,909	6,383	1.30	-	-
S03	木戸橋	国道20号	6,095	7,947	1.30	-	-
S04	犀川橋	大町明科線	10,434	12,867	1.23	-	-
S05	光橋	豊科大天井岳線	8,329	10,226	1.23	-	-
S06	田沢橋	豊科インター堀金線	10,681	13,960	1.31	-	-
S07	平瀬橋	国道147号	11,141	14,508	1.30	-	-
S08	新橋	国道148号	9,549	12,591	1.32	-	-
S09	松島橋	倭北松本停車場線	11,911	15,250	1.28	-	-
S10	奈良井大橋	国道158号	19,508	24,904	1.28	-	-
S11	奈良井橋	松本市市道7738号線	4,481	5,248	1.17	-	-
S12	両島橋	松本市市道7739号線	11,484	12,535	1.09	-	-
S13	月見橋	松本市市道7553(1-9)号線	9,562	11,805	1.23	-	-
S14	島立橋	松本市市道7712(1-44)号線	5,680	6,644	1.17	-	-
S15	下二子橋	松本市市道5209号線	12,304	15,181	1.23	-	-
S16	二子橋	松本空港線	11,035	13,485	1.22	-	-
S17	笹賀橋	松本環状高家線	13,057	17,178	1.32	-	-
S18	神戸橋	松本環状高家線	8,634	10,409	1.21	-	-
S19	小俣橋	松本空港塩尻インター線	8,311	9,854	1.19	-	-
S20	今村橋	塩尻鍋割穂高線	7,375	8,963	1.22	-	-
S21	太田橋	御馬越塩尻停車場線	1,752	2,055	1.17	-	-
S22	琵琶橋	上今井洗馬停車場線	1,873	2,215	1.18	-	-
S23	郷原橋	塩尻市市道	6,940	8,624	(1.2)	-	-
S24	桔梗大橋	塩尻市市道	7,097	8,819	(1.2)	-	-
	合計		231,866	290,735	1.24		

*S23、S24 は12時間観測。交通量は昼夜率1.2で換算

参考：H17 センサス調査箇所

国道 143 号 松本市刈谷原
 国道 403 号 麻績村叶里
 奈川木祖線 木祖村小木曾

3) 付帯調査の結果

3.1 集計結果

(1)回収状況

付帯調査に対する協力意向を示した 6,197 世帯に対して、希望の回答手法で調査票を発送した。調査票の回収状況を示す。

表 2-2 付帯調査回収状況 (H20.2/24~H21.4/20)

発送数	WEB	郵送	小計	有効世帯数	有効票数	回収率
6,197	1,190	3,185	4,375	4,215	7,800	68%

手法別の回収状況はWEB 68%、郵送 71%であり、有効票数 7,800 であった。

(2)精度検証

母集団と抽出サンプルの精度はパーソントリップ時と同様に以下の式で求める。

$$RSD(A) = K \sqrt{\frac{(ZK-1) \times (1-r)}{r \times N}}$$

RSD (A) : 相対誤差 (20%以下とする)

K : 信頼係数 (1.96 とする)

N : 母集団の大きさ (16 歳以上の人口 : 約 380,000 人)

ZK : カテゴリー数 (ゾーン数 : 17 × 利用頻度 : 4) ※利用しないを除く

r : 抽出率

この式より r を逆算したものが統計上必要とされる抽出率であり、16 歳以上の人口に対しては 1.7%が必要となる。

回収された有効票数は、7,800 票であり、人口の約 2.0%になることから、必要なサンプル数が回収できたと見なせる。

3.2 集計・分析方針

- ・ 松本都市圏総合交通体系調査では、平成 19 年度の予備調査において、現況の人口や世帯の動向、交通需要の動向、交通施策や各事業、及び、行政担当者へのヒアリングから、「都市づくり戦略と都市交通計画への要請事項」(表 3-1)の抽出や「計画課題の設定」(表 3-2)を行っている。
- ・ 本調査 (PT 調査) では現状の交通環境において生じたトリップ (移動目的、移動手段、移動地点、移動距離 等) を把握するものであり、交通サービスに対する利用者の評価や潜在的な需要を直接把握することはできない。
- ・ 地域がめざす都市像の実現に向けた「都市づくり戦略」や「計画課題」の検証、並びに「交通施策」の立案のためには、PT 調査をベースに土地利用やネットワ

一ク等の変化から推計される交通行動の変化（トリップ長や分担率の変化等）だけでなく、住民の交通環境に対する評価（不満点）、交通手段の選択理由、交通サービスの改善要望、交通課題の重要度、問題箇所の把握なども必要である。

- ・ 上記の観点から、本年度の付帯調査では、
 - ① 予備調査段階で行政主体で整理した都市づくり戦略や計画課題の妥当性の検証
 - ② 次年度に実施予定の特定交通課題（早期に対応すべき交通課題のテーマ）に対する調査企画の立案

を目的として、利用者の年代や地区の交通環境の違い等に着目した交通手段毎の評価や改善の方向性、公共交通利用に関する意向等を把握する。

(参考) 表 3-1 都市づくり戦略からみた、都市交通計画への要請事項 (予備調査より)

都市づくり戦略	要請事項
<p>① コンパクトシティ政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地をコンパクト化した場合の都市交通計画のあり方 	<ul style="list-style-type: none"> 集約型都市構造としてのコンパクトシティ政策は、公共交通利用促進、地球温暖化対策、中心市街地活性化等に寄与する。 実際に、松本市では今度の都市づくりとして、コンパクトシティを指向している。 このようなことを受けて、コンパクトシティ政策と連動する都市交通計画を検討する必要がある。
<p>② 中心市街地活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝夕の道路混雑緩和策 	<ul style="list-style-type: none"> 松本市街地流入部や国道 19 号の道路混雑緩和のために、必要な環状道路整備等のあり方、公共交通のあり方、徒歩・自転車交通のあり方 中心部の混雑を緩和する郊外部のパークアンドライドを支援する駅前広場、駐車場・駐輪場等の交通結節点整備のあり方 市民の意識改革を促すモビリティマネジメント※のあり方
<p>③ 公共交通利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道利用促進 バス利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が減少している JR 3 線、松本電鉄の利用促進 現在も利用者が多い高速バスのさらなる利用促進策 高齢社会を支える医療機関アクセス、買物交通行動を充足する、バス交通のあり方
<p>④ 観光振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 周遊観光の推進 まちなか観光の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 観光交通実態を把握して、有効な観光交通施策を展開 (夏期観光客向けの公共交通、自転車交通等のあり方、情報提供、歩行環境等のあり方等)
<p>⑤ 道路混雑区間の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ボトルネックの解消 (国道 19 号、国道 158 号等) 高速道路の利用促進 道路整備プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> 松糸線、筑摩野幹線、中部縦貫自動車道等の新規整備のあり方 IC アクセス道路の整備、長野自動車道 IC の追加、料金割引等の利用促進策のあり方 犀川、奈良井川、高瀬川等の新橋必要性の検討 幹線道路整備の優先順位、短期・中期・長期等の段階的道路整備計画のあり方、財政制約下の費用対効果の高いプログラムづくり、長期未着手都市計画道路の対応

※モビリティマネジメント

個人のモビリティ (移動) が、社会にも個人にも望ましい方向へ、自発的に変化することを期待すること。たとえば、「過度」な自動車利用から公共交通や自転車などを積極的に利用するライフスタイルへの転換を、個人とのコミュニケーションを中心に働きかける交通施策など。

(参考) 表 3-2 都市交通計画の計画課題 (予備調査より)

都市づくり戦略	都市交通計画への要請事項	
	テーマ	具体的な検討課題
①コンパクトシティ政策	市街地をコンパクト化した場合の都市交通計画のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ●将来人口分布パターンの設定 ●コンパクト化効果の検証 ●コンパクトシティの都市交通計画のあり方
②中心市街地活性化 ③公共交通利用促進	朝夕の混雑緩和策	●環状道路整備等のあり方
	TDM*施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通システム、徒歩・自転車交通のあり方 ●交通結節点整備のあり方 ●明科駅等のパークアンドライド等のあり方 ●モビリティマネジメントのあり方
	鉄道利用促進	●JR3線、松本電鉄の利用促進
	バス利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ●高速バスの利用促進策 ●高齢者の医療、買物交通行動を充足する、民営、公営の路線バスの利用促進策のあり方
④観光振興	周遊観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●観光交通実態の把握 ●夏期観光客向けの公共交通、自転車交通等のあり方
	まちなか観光の推進	●情報提供、歩行環境等のあり方
⑤道路混雑区間の解消	国道19号の混雑緩和	●BP道路(筑摩野幹線等)整備のあり方
	IC周辺の国道158号等の混雑緩和	<ul style="list-style-type: none"> ●中部縦貫自動車道整備のあり方 ●ICアクセス道路の整備
	高速道路の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ●長野自動車道ICの追加 ●料金割引等の利用促進策のあり方
	河川渡河部の混雑緩和	●犀川、奈良井川、高瀬川等の新橋必要性の検討
	道路整備プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ●幹線道路整備の優先順位、短期・中期・長期等の段階的道路整備計画のあり方 ●財政制約下の費用対効果の高いプログラムづくり ●長期未着手都市計画道路の対応

※TDM (Transportation Demand Management)

車の利用者の交通行動の変更(時間帯の変更、経路の変更、自動車の効率的利用、発生源の調整など)を促すことにより、道路交通混雑を緩和するしくみのこと

3.2 分析結果

(1) 設定した計画課題の妥当性確認

表 3-4 検証結果概要

都市づくり戦略	テーマ	検証事項	評価	関連設問番号	分析結果	
①コンパクトシティ政策	市街地をコンパクト化した場合の都市交通計画のあり方	●都市機能や公共交通網が充実したコンパクトな市街地では、様々な交通目的に公共交通が利用され、交通環境に関する評価が高いのではないかと？	・公共交通が比較的充実した市街地が転居先のイメージにあてはまるという意見が多い。	Q36	今後住んでみたい地域として、松本市、塩尻市、安曇野市、松川村では今住んでいる地域のまちなかがあてはまるという意見が比較的多い。	
		●都市機能や公共交通の充実、公共施設等へのアクセス性の向上により、市街地への住み替えが進むのではないかと？	・市街地居住を促進する環境整備として、日常の買い物の利便性や病院・福祉施設等への利便性に資する公共交通等の充実による効果が期待できる。	Q33 Q36	松本都市圏では一戸建て・持ち家の割合が高く、転居理由としては住宅の取得が多い。 次の転居先の重視点としては、日常の買い物の利便性、病院や福祉施設への利便性、鉄道やバスの便が多くなっており、コンパクトな市街地の形成による、まちなか居住の促進効果が期待できる。	
		●混雑緩和は住民にとって重要な課題ではないかと？	・混雑緩和策の重要度が認識されている。	Q7 Q8 Q39	道路の渋滞を自動車環境の改善すべき点の第1位は道路の渋滞である。 道路の問題で最も指摘が多かったのは慢性的な渋滞に対する指摘である。 市街地での朝夕の混雑緩和や自動車利用の適性化を重要課題にあげる意見が最も多い。	
②中心市街地活性化	TDM施策の推進	●公共交通サービスの向上、歩行・自転車交通環境の向上によって、自動車からの転換が行われるのではないかと？	・バスや鉄道が便利になれば自動車から転換するという意見は4割程度ある。	Q10	各市町村別にみてもバスや鉄道が便利になれば3~4割が自動車から転換する意向がある。	
		●交通結節点整備の必要性が高いのではないかと？	・鉄道利用環境への改善要望は交通結節点としての機能に対する意見が多い。	Q21 Q23	改善要望としては、駅周辺の駐車場・駐輪場、運行頻度、駅までのバス、料金、終発時間などが多い。 利便性を向上して利用したい駅は、篠ノ井線での指摘数が多い。	
		●パークアンドライド等が求められているのではないかと？	・MMに興味がある人の交通実態、交通課題認識に対する傾向。		クロス集計未実施	
		●モビリティマネジメント(MM)の適合性について、現状の認知度や興味、交通課題の認識などから設定すべきではないかと？	・現在の鉄道利用環境の満足度はバスに比べ高い。	Q20	鉄道利用環境は、バスの利用環境(問14)に比べて満足度が高い。	
	③公共交通利用促進	鉄道利用促進	●基幹的公共交通(鉄道)のサービスが向上すれば、利用が増えるのではないかと？	・改善されれば今使用していない人の3割は利用する意向が確認された。	Q22	改善されれば5割は鉄道を今より利用するようになり、今利用しない人の3割も利用するとしている。
			●高速バスの利用が期待されているのではないかと？	・圏域全体で重要性の高い課題としての認識とは確認できていない。	Q39	全体としては重要度の上位ではない。
		バス利用促進	●高齢者の医療、買物交通行動を充足する路線バス等が実現すれば、利用されるのではないかと？	・70歳以上では自動車による移動の割合が低くなっている。	Q2	70歳以上では、毎日自動車を利用する割合は3割程度に減少し、利用しない割合が2割近くであり、移動手段の確保が重要な課題となる。
				・バスの利用目的では通院や買い物が多い。	Q12	自動車や鉄道に比べ、バスの利用目的では通院や買い物が多い。
				・現在のバス利用環境の満足度は低いが、改善されれば今使用していない人の4割は利用する意向が確認された。	Q14 Q15 Q16	バス利用環境の満足度は、自動車や鉄道に比べ低い。 改善要望では、運行頻度が最も多く、次いでバス停位置や料金の要望が高い。 便利になれば5割はバスを今より利用するようになり、今利用しない人の4割も利用するとしている。

④観光振興	周遊観光の推進	●観光交通に対する問題意識が高いのではないか？	圏域全体で重要性の高い課題としての認識とは確認できていない	Q38	全体としては重要度の上位ではない。
		●観光関連の公共交通、自転車交通の課題もあるのではないか？	・全体として重要性を確認できなかった	Q41	自由意見では、アクセス道や公共交通の整備を指摘する意見もある。
	まちなか観光の推進	●情報提供、歩行環境等の改善が求められているのではないか？	・全体として重要性を確認できなかった	Q41	自由意見では、看板やマップ、パンフレットの意見がある。
⑤道路混雑区間の解消	国道 19 号の混雑緩和	●B P 道路（筑摩野幹線等）整備が地域全体の課題として認識されているのではないか？	・圏域全体からの重要性が認識されている	Q8	道路の問題で最も指摘が多かった場所は国道 19 号である。
	I C 周辺の国道 158 号等の混雑緩和	●中部縦貫自動車道整備や I C アクセス道路の整備が地域全体の課題として認識されているのではないか？	・圏域全体からの重要性が認識されている	Q8	道路の問題で、国道 158 号も上位に指摘されている。
	高速道路の利用促進	●長野自動車道 I C の追加や料金割引等の利用促進が地域全体の課題として認識されているのではないか？	・圏域全体からの重要性の把握されている。	Q9	高速道路の料金値下げによる利用しやすさが、ほとんどの市町村で強く期待されている
	河川渡河部の混雑緩和	●犀川、奈良井川、高瀬川等の新橋必要性が地域全体の課題として認識されているのではないか？	・地域によっては重要な課題の上位にある。	Q38	渡川部の混雑は、安曇野市 4（旧村部）や山形村、松本市 3（旧村部）などで指摘が多い。
	道路整備プログラム	●財政制約下の費用対効果の高いプログラムづくりが望まれているのではないか？	・時と場合に応じて自動車と公共交通を使い分けられるようにすべきであり、全ての地域に一定の交通サービスを提供した上で必要性の高い地域に高いサービスを提供するという意見が多い。	Q37	将来像としては、時と場合に応じて自動車と公共交通を使い分けられるようにすべきという意見が最も多いが、麻績村では、公共交通を重視するという意見も自動車と公共交通の使い分けるべきという意見と同程度である。
				Q38	交通政策としては、全ての地域に一定の交通サービスを提供した上で必要性の高い地域に高いサービスを提供するという意見が 5 割程度あるが、筑北村、松川村では、全ての地域で同じようなサービスの提供と、必要性の高い地域に高いサービスを受けられるようにという意見が同程度である。
				Q38	地域によっては、計画的な道路の整備の推進を重要視している。
その他の意見	自転車利用環境	（想定なし）	・自転車走行環境の満足度は、自動車や鉄道に比べて低い。	Q26	自転車利用環境は、自動車（問 6）や鉄道（問 20）の利用環境に比べて満足度が低い。